マダガスカル研究懇談会ニュースレター

SERASERA48

2023.2.28発行

表紙の写真

ケネリア マダガスカリエンシス（*Koehneria madagascariensis*）ミソハギ科

乾期の茶、黄色系が多い森の中で、目の覚めるような鮮やかな桃色を見たときはびっくりしました。撮影場所の Andohahela 国立公園は中央高原帯の南端にあたり、湿潤地と乾燥地との境界になっています。撮影数日前に時期外れの降雨があったとのことで、開花が始まったようでした。花が散り始めるとまさに桜吹雪のようです。

撮影年月日：1998 年 8 月 26 日
撮影場所：Andohahela 国立公園周辺

撮影者：橋詰　二三夫

目次

表紙の写真・・・

マダガスカル活動奮闘記　21

コロナ禍でのマダガスカル渡航奮闘記（復路編）

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 佐藤 宏樹

本誌前 47 号では「コロナ禍でのマダガスカル渡航奮闘記（往路編）」と題し、COVID-19 オミクロン株の猛威が世界を襲う 2021 年 12 月にマダガスカルに渡航した際の苦労話を報告した。本稿では調査を終えて 2022 年 1 月に帰国した際のエピソードを奮闘記（復路編）として報告する。コロナ禍に緊急渡航することになった背景については、往路編の記事を参照されたい。

【久しぶりのマスク】

2021 年 12 月 19 日から 2022 年 1 月 8 日にかけて過ごしたマダガスカル北西部のアンカラファンツィカ Ankarafantsika 国立公園での調査生活では、マスクをすることはなかった。地方ではマスクを着用していると、「お前はコロナに罹っているのか？」と疑われる。また、蒸し暑い雨季の野外調査では、マスクは息苦しいだけの邪魔な存在だった。1 月 9 日、調査を終えた私は車両を借り上げて早朝にアンカラファンツィカを出発し、アンタナナリヴ Antananarivo（略称：タナ）に向かった。夕方になり、タナに入ると道中ですれ違う人々の一部がマスクを着用している。ドライバーに「サトウ、タナに入ったし、そろそろマスクをしてくれ。タナでは警察が乗客のマスク着用をチェックするんだよ。」と言われた。実に 1 カ月ぶりのマスクだった。いつも空気のうまい森の生活からタナに戻るとき、排ガスで汚染された空気はまずく感じる。マスクをつけるとそれが少し和らぐ感じがするので、タナでのマスク着用はいろんな意味で有意義だと思った。

【マダガスカル出国時の PCR 検査】

2022 年 1 月時点でマダガスカルから日本へ渡航する際は、出国前 72 時間以内に PCR 検査を受けて COVID-19 の陰性を証明する必要があった（2022 年 9 月 7 日からワクチン 3 回接種者は日本入国時の陰性証明は不要となった）。とくに、検査機関独自の PCR 陰性証明書だけではなく、日本政府厚生労働省指定の陰性証明書の発行も必須となる点に注意が必要だった。日本を出国する際に関空の職員にもこの証明書に関して念を押された。マダガスカルから日本に渡航する際の手続きに関しては、在マダガスカル日本国大使館のウェブサイトの「日本への帰国をご予定の方へ」というページを参照するとよいだろう。
https://www.mg.emb-japan.go.jp/itpr_ja/kikoku_00001.html

2022 年 1 月時点の情報によると、2 つの証明書の発行に対応してくれる検査機関は、以

下の 2 か所であった（現在ではこれらの情報が変わっている可能性があるので注意）。

1. Le Laboratoire d'Analyses Médicales Malagasy （ LA2M ）
   (1) 場所：Androibe, Antananarivo
   (2) 電話：034-37-152-61
   (3) 料金：10 万アリアリ
   (4) 結果受領までの所要時間：24 時間
   (5) 休院日：土日（受付時間は 8：00～16：00 まで）
   (6) 予約：不要

2. Polyclinique d'Ilafy
   (1) 場所：Andafiavaratra Ambohitrarahaba, Antananarivo
   (2) 電話：020-22-485-66
   (3) 料金：30 万アリアリ
   (4) 結果受領までの所要時間：検査終了のおおよそ 2 時間後に検査結果が判明。
   (5) 予約：不要
   (6) 休所日：なし 24 時間対応可能。

2022 年 1 月 11 日、私は翌日深夜の帰国フライトに備えて LA2M で検査を受けたので、その手順を報告する。

料金、パスポートのコピー、E チケット、厚生労働省の証明書様式（仏語版にした）を印刷したもの（既述の日本国大使館のウェブサイトからダウンロード可能）を準備し、タクシーを捕まえた。運転手に Androibe の Le Laboratoire d'Analyses Médicales Malagasy（LA2M）に行ってくれと依頼する。タクシーの運転手は正確な場所を知らなかったが、近くまで行って通行人などに詳しく聞いてくれたので、検査機関まで行くことができた。施設の目印は、現大統領のシンボルカラーであるオレンジとピンクの色の建物である（写真 1）。駐車場のスペースは十分にある。

写真 1．PCR 検査を行った Le Laboratoire d'Analyses Médicales Malagasy （ LA2M ）

施設ではまず、書類の提出と支払いが求められる。その際に領収書兼陰性証明書の引換（写真 2）をもらうので、大事に保管する。

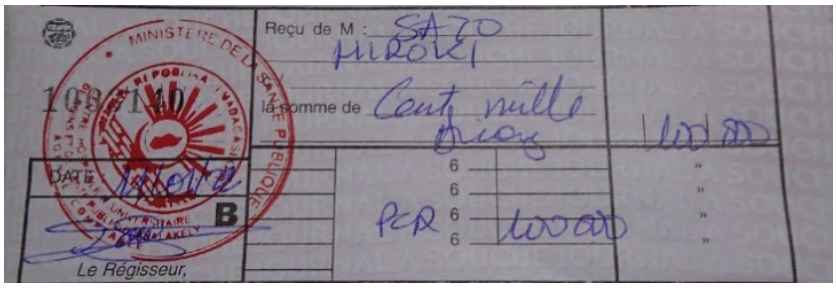
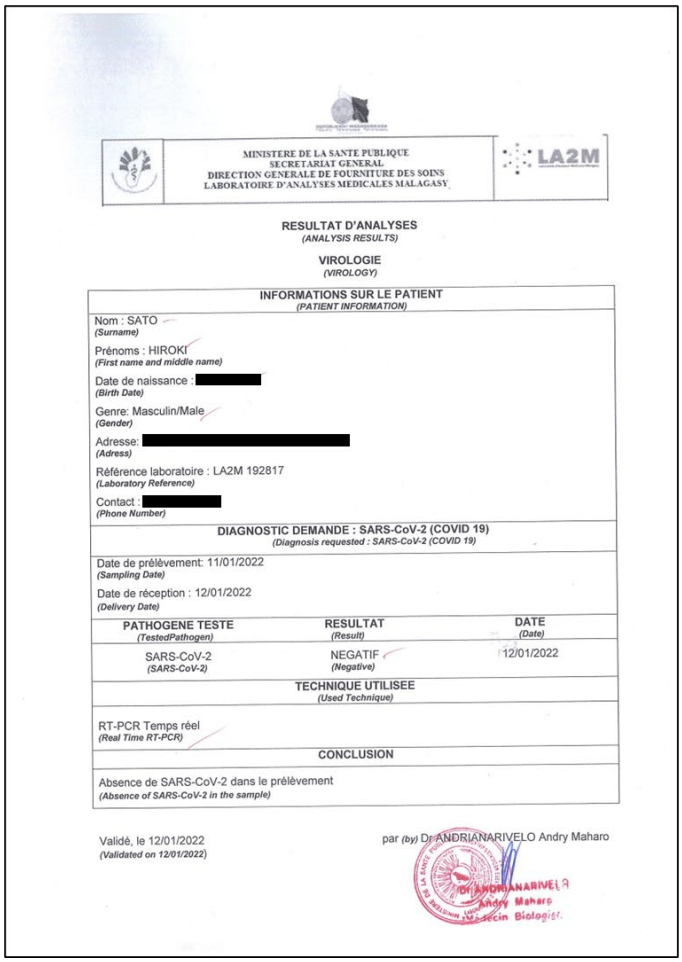


写真 2．領収書兼陰性証明書の引換券

検査が始まると躊躇なく綿棒を鼻の奥に入れられたので痛かったが、手際よく終わった（写真 3）。こちらの一番の目的である厚生労働省の用紙への記入について、再度スタッフにお願いすると、書類作成の担当者に直接その用紙を渡す方が良いと勧められた。担当者に手渡すと「明日の同じ時間帯に来なさい。」とのことだった。

写真 3. PCR 検査の様子

翌日の同じ時間帯にタクシーで LA2M に向かった。書類を受け取るだけなので、タクシーには駐車場で待ってもらった。引換券（写真 2）を渡すと、LA2M が発行する陰性証明書と厚生労働省の陰性証明書を受け取ることができた（写真 4）。必要事項に正しく記入されているかを再度確認したのち、タクシーに乗って LA2M を後にした。



MINISTERE DE LA SANTE PUBLIQUE
SECRETARIAT GENERAL
DIRECTION GENERALE DE FOURNITURE DES SOINS
LABORATOIRE D'ANALYSES MEDICALES MALAGASY

LA2M

RESULTAT D'ANALYSES
(ANALYSIS RESULTS)

VIROLOGIE
(VIROLOGY)

INFORMATIONS SUR LE PATIENT
(PATIENT INFORMATION)

Nom : SATO
(Surname)

Prénoms : HIROKI
(First name and middle name)

Date de naissance : [redacted]
(Birth Date)

Genre: Masculin/Male
(Gender)

Adresse: [redacted]
(Adress)

Référence laboratoire : LA2M 192817
(Laboratory Reference)

Contact : [redacted]
(Phone Number)

DIAGNOSTIC DEMANDE : SARS-CoV-2 (COVID 19)
(Diagnosis requested : SARS-CoV-2 (COVID 19)

Date de prélèvement: 11/01/2022
(Sampling Date)

Date de réception : 12/01/2022
(Delivery Date)

PATHOGENE TESTE (TestedPathogen)	RESULTAT (Result)	DATE (Date)
SARS-CoV-2 (SARS-CoV-2)	NEGATIF (Negative)	12/01/2022

TECHNIQUE UTILISEE
(Used Technique)

RT-PCR Temps réel
(Real Time RT-PCR)

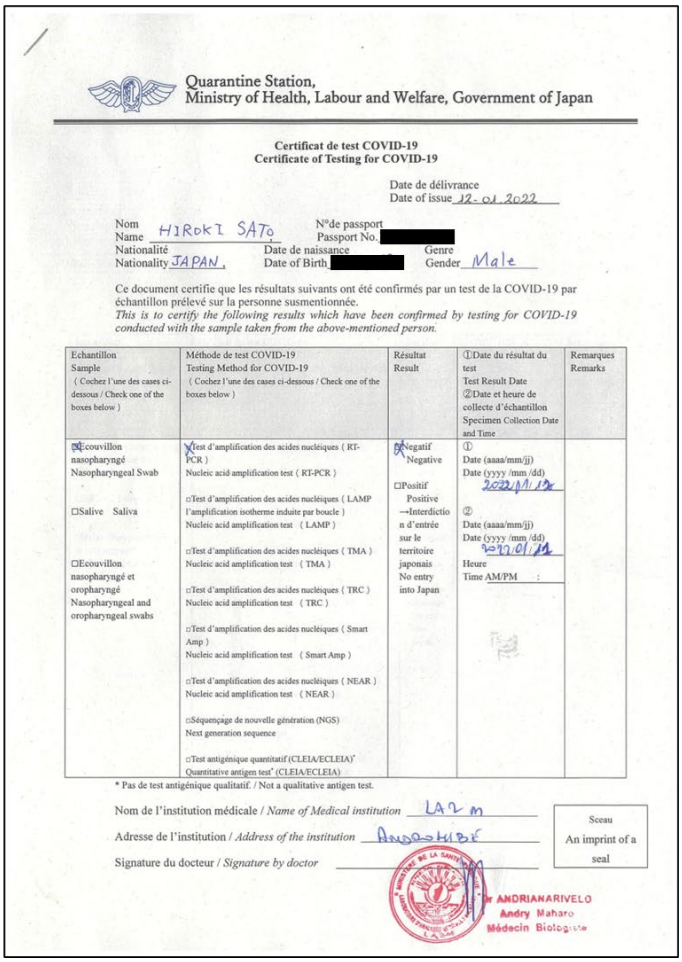
CONCLUSION

Absence de SARS-CoV-2 dans le prélèvement
(Absence of SARS-CoV-2 in the sample)

Validé, le 12/01/2022
(Validated on 12/01/2022)

par (by) Dr ANDRIANARIVELO Andry Maharo

Dr ANDRIANARIVELO Andry Maharo Médecin Biologiste



Quarantine Station,
Ministry of Health, Labour and Welfare, Government of Japan

Certificat de test COVID-19
Certificate of Testing for COVID-19

Date de délivrance
Date of issue 12-01-2022

Nom
Name HIROKI SATO
N°de passport
Passport No. [redacted]
Nationalité
Nationality JAPAN
Date de naissance
Date of Birth [redacted]
Genre
Gender Male

Ce document certifie que les résultats suivants ont été confirmés par un test de la COVID-19 par échantillon prélevé sur la personne susmentionnée.
This is to certify the following results which have been confirmed by testing for COVID-19 conducted with the sample taken from the above-mentioned person.

Echantillon Sample (Cochez l'une des cases ci-dessous / Check one of the boxes below)	Méthode de test COVID-19 Testing Method for COVID-19 (Cochez l'une des cases ci-dessous / Check one of the boxes below)	Résultat Result	①Date du résultat du test Test Result Date ②Date et heure de collecte d'échantillon Specimen Collection Date and Time	Remarques Remarks
☒Ecouvillon nasopharyngé Nasopharyngeal Swab □Salive Saliva □Ecouvillon nasopharyngé et oropharyngé Nasopharyngeal and oropharyngeal swabs	☒Test d'amplification des acides nucléiques (RT-PCR) Nucleic acid amplification test (RT-PCR) □Test d'amplification des acides nucléiques (LAMP l'amplification isotherme induite par boucle) Nucleic acid amplification test (LAMP) □Test d'amplification des acides nucléiques (TMA) Nucleic acid amplification test (TMA) □Test d'amplification des acides nucléiques (TRC) Nucleic acid amplification test (TRC) □Test d'amplification des acides nucléiques (Smart Amp) Nucleic acid amplification test (Smart Amp) □Test d'amplification des acides nucléiques (NEAR) Nucleic acid amplification test (NEAR) □Séquençage de nouvelle génération (NGS) Next generation sequence □Test antigénique quantitatif (CLEIA/ECLEIA)* Quantitative antigen test* (CLEIA/ECLEIA)	☒Negatif Negative □Positif Positive →Interdiction d'entrée sur le territoire japonais No entry into Japan	① Date (aaaa/mm/jj) Date (yyyy /mm /dd) 2022/01/12 ② Date (aaaa/mm/jj) Date (yyyy /mm /dd) 2022/01/14 Heure Time AM/PM :	

* Pas de test antigénique qualitatif. / Not a qualitative antigen test.

Nom de l'institution médicale / *Name of Medical institution* LA2M

Adresse de l'institution / *Address of the institution* ANDOHIBE

Signature du docteur / *Signature by doctor*

Sceau
An imprint of a seal

Dr ANDRIANARIVELO Andry Maharo Médecin Biologiste

写真 4.　LA2M の陰性証明書（左）と厚生労働省の様式に記入してもらった陰性証明書（右）

【イヴァト空港から自宅へ】

1 月 12 日の晩、ホテルの WiFi を使って入国者健康居所確認アプリ『My SOS』(My SOS の取り扱いは 2023 年 1 月 13 日をもって終了し、現在は、Visit Japan Web の「検疫手続（ファストトラック）」ボタンを押して、事前に証明書等を登録し審査を受ける方式に移行）を自分のスマートフォンにインストールしてからイヴァト Ivato 空港に向かった。往路の時とは違い、空港は見違えるように新しくなっていた（写真 5)。いつもの鬱陶しいポーターに囲まれることもなく、すんなりとカウンターでチェックインできた。カウンターで陰性証明書を見せた後もスムーズに手続きが進み、搭乗ゲートまで難なくたどり着いたのだった。空港は新しくなっているものの、COVID-19 の影響なのか、工事が遅れているからなのか、新しい売店はいずれの店もシャッターが下りていた（閉店状態は 2022 年 10 月も同じだった)。

写真 5. 新しくなったイヴァト国際空港

日にちも変わった 1 月 13 日の午前 2 時に搭乗するとパリ行きの機内は乗客でごった返していた。パリに到着するまでの 11 時間のフライトは、久々に感染リスクを感じた時間だった。日本での社会復帰を考えると、帰国中に感染するわけにはいかない。一方の同日 14 時パリ発関西国際空港（略称：関空）行きのフライトはまだ空席が目立っていた。これは往路と同じ状況だった。翌 1 月 14 日 10 時前に関空に到着したが、空港は相変わらずガラガラだった。検疫手順が複雑で空港内の長い通路を利用して、ひとつひとつ関門を作り（写真 6）、空港スタッフ（日本語と英語、中国語、韓国語が話せる若いアジア人の方が多かった）の誘導に従って検査をこなしていく。陰性証明を見せ、唾液を検査キットに採取し、体温を測り、各種書類を見せ、My SOS をスマートフォンにインストールしていることを見せ、最後は先ほど提出した唾液サンプルの検査結果が陰性かどうかを確認し（モニターに陰性の場合は検査番号が表示される）、11 時頃に晴れて空港の外に出ることができた。

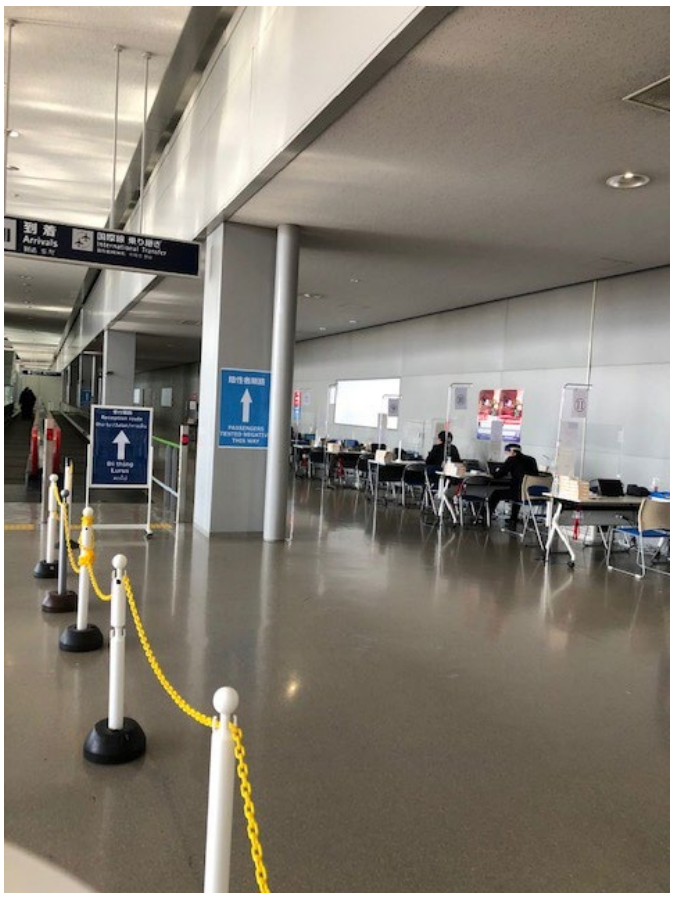


写真 6. 関西国際空港内の通路に設置された検査会場

しかしながら、帰国者は公共交通機関に乗車することができない。タクシー会社が準備した帰国者ハイヤーに 1 人で乗り込み、4 万円以上かけて自宅まで届けてもらった。帰宅後は 10 日間の自宅隔離が始まる。My SOS は 1 日数回連絡が来る。感染の症状が出ていないことを確認する連絡、スマホの GPS 機能によって居場所が変わっていないことを確認する連絡、スマホのカメラをオンにして自分の顔と背景を撮影しながら居室が変わっていないかを動画撮影で確認する連絡などに対応するのである。食事も家族に隔離部屋の前までもってきてもらい、ノックで食事の到着を教えてもらって対面しないようにしながら食事を受け取り、隔離部屋の中で食事をとった。歩いて移動するのはせいぜいトイレに行くときぐらいで、せっかくマダガスカルで引き締まった身体も少しなまってしまった。自分の学生の修士論文執筆の指導や修士論文公聴会もオンラインミーティングで参加することになった。数日前までマスク無しで森林を歩き回っていたアンカラファンツィカとは別の閉鎖的な世界に感じた。1 月 26 日、無事に隔離期間が明けて、家族とも会話や食事を共にし、ようやく職場にも復帰できた。

その後、2022 年は 9 月から 10 月にかけてもう一度マダガスカルに渡航したが、エチオ

ピア航空の運航が再開し、COVID-19 に関する出入国の検査も簡略化され、隔離もなくなった。おそらくは今回報告した 2021 年 12 月から 2022 年 1 月までの渡航は後にも先にも最も大変なものだっただろうと思う。今日、国際的な感染症や戦争によって海外渡航に不自由が出てくる時代になりつつある。今回の経験は、何事もない渡航のありがたさに気づかされる機会にもなった。現在、私たちは次回渡航の準備を始めつつある。無事の渡航を実現するためにも万全の準備を進めたいと思う。

生き物図鑑　27

ケネリア マダガスカリエンシス

（一財）進化生物学研究所 橋詰二三夫

【和名】 ケネリア マダガスカリエンシス（学名の英語読みを、カタカナ表記したもの）

【学名】*Koehneria madagascariensis*（ミソハギ科ケネリア属）

【現地名】pisopiso：Amboasary 地域、Ampanihy 地域、Toliara 地域

【分布】

Ihosy より南側（Andohahela より西側）から南西部(Toliara)に広く分布する。森林ギャップや道際など日当たりのよい開けた場所で育成。

【形態的特徴】

高さ 2～3 m 程度のミソハギ科の木本性植物。（図 1）幹は太くても 3～5 cm 、葉は幅 5 mm ほどの長円形。花は大きさ 1～1.5 cm で枝先に密生する。花弁は 5～6 枚、雄しべ 10～14 本（基本 12 本)、雌しべ 1 本。花色は株ごとで白、桃色、赤紫色（図 2, 図 3）がある。開花期は 9 月～12 月、乾期後の降雨で一斉に開花し始める傾向があり、降雨があれば 8 月下旬でも開花が確認されている。

【その他】

ミズカンピ属（*Pemphis*）やサルスベリ属（*Lagerstroemia*）の固有種として分類されることもあったが、独立した固有属（現在一属一種）として扱われている。写真は 1998 年 8 月 26 日にサンカクヤシの保護区で有名な Andohahela 国立公園の道沿いで撮影したものである。雨期の初めの降雨で一斉に開花し、特に葉が展開前に花が咲きそろうので、場所によっては日本のサクラの開花を思わせる景観が楽しめる。花色は株ごとで異なり、同株内では濃淡の若干の差異はあるが、他色との混在は確認できていない。

分布に関して筆者は南部では Andohahela より東側の湿潤な地域では確認できていない。また日本での栽培では 5° C 以下の低温で非常に弱る傾向があり、このことは中央高原地域にも分布しているが、季節によって 5° C 以下になる中央高原地域で分布が確認されていない事にもつながる。

参考文献

Graham, Shirley A., et al. “Koehneria, A New Genus of Lythraceae from Madagascar.” Annals of the Missouri Botanical Garden, vol. 73, no. 4, 1986, pp. 788–809. JSTOR, https://www.jstor.org/stable/2399207

図 1. *Koehneria madagascariensis* の全景

図 2. ケネリアの白花

図 3. ケネリアの赤紫花

図 4. ケネリア分布景観　日当たりのある場所が良いらしく、人為的な伐採が行われた二次林のような場所、道端でもみることができる

Voandalana（土産話）39

アンドゥハヘラ国立公園

写真家　堀内孝

短い滞在だったが、今も記憶に残る国立公園がある。マダガスカル南東部の町フォール・ドーファン Fort Dauphin 郊外にあるアンドゥハヘラ Andohahela 国立公園だ。2001 年 9 月、週刊誌の取材で、南部で乾生林の復元保全活動をするボランティア サザンクロス ジャパン協会の活動拠点を訪ねた際、現地スタッフのリヴ・ロビンソンさんが、「近くに、優れたエコツーリズムを進める国立公園として世界的な賞を獲ったところがあるんです。立ち寄って行きませんか？」と誘ってくれたのである。

図 1　アルオウディアやユーフォルビアが生える南部のトゲの森

フォール・ドーファンから国道 13 号線をアンブヴンベ Ambovombe 方面へ車で約 1 時間半。リヴさんの運転するピックアップトラックは、アンタニヴィナキ Antanivinaky 村の手前で国道を右折し、細い赤土の道に入った。周囲には、島内でもこの地域にしか生えないというサンカクヤシ *Dypsis decaryi* や、鈍色に輝くザー・バオバブ *Adansonia za*、幹に鋭いトゲの生えたアルオウディア・プロケラ *Alluaudia procera* など珍しい植物が次から次へと

現れる。荒れた未整備の道を 8 キロほど走ると、ようやく公園入り口にある事務所に到着した。

図 2　アンドゥハヘラ国立公園のツィメラヒ・ゲートの事務所

この公園は、フォール・ドーファンの北西 40 キロほどに位置し、約 760 平方キロという広大な面積を持つ。1939 年に厳正自然保護区となり、1997 年には国立公園となった。最大の特徴は、ひとつの公園の中に、熱帯雨林、乾生林、熱帯雨林と乾生林が混在する移行林の 3 つのゾーンがあることだ。そこに 1000 種以上の植物が自生し、10 種以上のキツネザル、約 130 種の鳥類など多様な動物が暮らすという。

リヴさんが連れてきてくれたのは、移行林が広がるツィメラヒ Tsimelahy 村のゲートだった。案内板に 3 キロほどのループ状のコースが示されている。特別な装備は必要なく、2 時間もあれば楽に回れそうなコースだ。ガイドがいないため、リヴさんの案内で早速公園に入った。

歩き始めるとすぐ、観葉植物で人気のカランコエが現れた。葉がぶ厚く、ベルベットのように滑らかで、とにかく大きい。葉を広げた姿は 30 センチ以上あるのではないだろうか。「カランコエ・ベハレンシス *Kalanchoe beharensis* です」とリヴさん。日本で売られている小ぶりの鉢植えとは全く別物だ。

左に曲がり小道を進んでいくと、樹高数メートルはあるザー・バオバブが立っていた。この地域に分布するバオバブで、水脈に沿って生えるのだという。木の下には長さ 20 センチ

ほどの細長い果実がいくつも落ちている。

鮮やかな黄色い花を付けるというウンカリーナ・グランディディエリ *Uncarina grandidieri* も見かけた。「シャンプーノキ」として知られており、葉を水に浸して揉むとトロトロした粘液が出てくるそうだ。現在も行われているかどうかは不明だが、地元の人はそれを使って髪を洗うのだという。

図 3　ツィメラヒ・コースの見晴台から見たアンドゥハヘラ国立公園の移行林

45 分ほど歩くと、公園を見渡せる高台に出た。周辺にはアルオウディア・プロケラやサンカクヤシが立ち並び、眼下にタランツィ Tarantsy 川が流れている。遠くに連なるのはアヌシ Anosy 山脈で、インド洋から吹きつける貿易風があの山並みにぶつかり、山脈の東側（向こう側）に雨を降らせ、西側（こちら側）には乾燥した気候をもたらす。移行林の広大な風景が眺められる絶好のポイントだ。

ひとしきり写真を撮ると、坂道を下り、タランツィ川を渡った。川沿いにはパンダナス *Pandanus* が生え、その近くにキャンプ場が整備されている。水浴ができそうな水場もあり、気持ちよく過ごせそうな空間だ。

図４　川沿いで見かけたマダガスカルミツメイグアナ

ふと足元を見ると、目が三つあるように見えるトカゲが日向ぼっこをしていた。マダガスカルミツメイグアナ *Chalarodon madagascariensis* だ（ただし 2015 年にアンドゥハヘラ国立公園の近くでこのトカゲと近縁な別種 *C. steinkampi* が発見されている。写真の個体がどちらの種なのかは厳密には不明である）。この公園には爬虫類も多く、70 種以上が確認されているという。

図 5　黄色い花が咲いたパキポディウム・ロズラーツム

岩盤をよじ登り、先ほど見晴台から見えた対岸の岩場に出てみた。黄色い花を付けた「ミニバオバブ」を思わせる植物の群落が目の前に広がった。パキポディウム・ロズラーツム *Pachypodium rosulatum* である。まるで人口庭園のような空間だ。さらに岩場を進むと、トゲに覆われた銀色に輝く太い幹が林立していた。一体何本生えているのだろうか。ゾクゾクするような植物景観である。パキポディウム・ラメリ *Pachypodium lamerei* だという。

残念ながらキツネザルには出会えなかったが、あまりにも風景がすばらしく、植物のフォルムもインパクトのあるものばかりで、結局 4 時間近くも滞在することになってしまった。できればキャンプをして、ゆっくりと風景や植物を撮影したい場所だ。

図 6　岩場にはパキポディウム・ラメリが多数立ち並ぶ

滞在を終えて活動地のラヌマインティ Ranomainty 村へ向かう道すがら、リヴさんは「ここに来るまでの道がきちんと整備されれば、もっと個人旅行者が増えるんですが・・・」と課題を挙げていた。確かに道の整備状況は芳しくなく、普通車では心もとない道だった。またガイドも不足しているため、ラヌマインティ村の住民を公園のガイドにする計画を進めているという。

フォール・ドーファン周辺では、気軽に動植物と触れ合えるナハンプアナ Nahampoana 保護区や快適なロッジに滞在しながらキツネザルを観察できるベレンティ Berenty 私設保護区などが人気だが、アンドゥハヘラ国立公園ほどスケール感に溢れ、多様な動植物に出会えるところはない。あれから 20 年以上が経ち、公園のインフラも少しずつ良くなっていると聞く。断続的に続く干ばつで治安が悪化しているとの情報もあり心配されるが、新たな訪問先として非常に魅力的な国立公園である。

Moi et Madagascar vol.27

私とマダガスカル

絵・文
元青年海外協力隊
マダガスカル隊員石田

私が青年海外協力隊として派遣された町は、マダガスカル一寒くて有名な Antsirabe(Antananarivo から南に 170km）でした。とりわけマダガスカルの冬にあたる６月から９月の間は、たいへんに冷え込みます。しかも配属先である学校は＜冬休み＞（grandes vacances）に入り、身も心も寒い時期でもありました。

特に夜は室内にいても窓から入る隙間風でとても辛いのです。夕飯後は寒さに耐えられず、すぐに布団に包まって寝ていました。21 時には寝てしまうので、朝は６時前には目が覚めます。でもいつまでも布団に包まっていないで、すぐに出かけるのには訳がありました。

私が住むアパートから５分ほど歩くと、品数が豊富な食料品店があり、焼きたてのフランスパンが大きなカゴの中に立てられて売られているのです。パン工場から届いたばかりで、皮はパリッと中はフワフワしているのです！たくさんの人々がそのパンを求めてやって来ていました。

買い物を終え、家に帰ってまず炭をおこします。お湯を沸かしコーヒーを入れますが、炭をおこすのは暖のためでもありました。そして焼きたてのフランスパンにバターを塗って食べるのがご馳走でした。

９月に入って少しずつ気温が上がってくると、長い＜冬休み＞が終わって、学校での活動が始まりました。私の朝食は、通勤の途中にある食堂で、mofo baolina（揚げドーナツ）を食べる日々に戻りました。

マダガスカルのことわざいろいろ　30

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所　深澤　秀夫

Aleo mifanena amy ny mpamosavy, toy izay mifanena amy ny mpandainga.
[W.E.Cousins et J.Parret, *Ohabolan'ny Ntaolo*, Mémoires de L'Academie Malgache Fascicule XLIV, Tananarive:Imprimerie Nationale, 1972: 602.]

Aleo mifanena amin' ny mpamosavy, toy izay mifanena amin' ny mpandainga.
[Estine Rinara Soa, *Ohabolana Malagasy* , Antananarivo: Librairie Mixte, 2006: 14.]
[J.A.Houlder, *Ohabolana ou Proverbes Malgaches*, Antananarivo: Trano Printy Loterana, 1960: 37.]

直訳：「嘘つきに出会うよりも邪術師に出会う方がましです」

意訳：「嘘は泥棒の始まり」

aleo A toy B は、「B よりも A を好む」、「B よりも A の方がまし」を表します。izay は、マダガスカル語の代名詞もしくは関係代名詞で、このことわざにおいては、izay 以下の事柄全てを指しています。mifanena は、tsena「出迎え」を意味する語根に、相互行為を表す接頭辞 mifa- が付加された動詞で、「お互いに出会う」事を意味します。mpandainga は、「嘘」を指す名詞 lainga に ma-の接頭辞が付加した動詞 mandainga「嘘をつく」に、「～する人」と言う行為者を表す m-の次に-p-が挿入された形で、「嘘をつく人＝嘘つき」の意となります。例えば、halatra「窃盗」を語根とする magalatra「盗む」と言う動詞に、-p-が挿入された mpangalatra は、「泥棒」の意味となります。aminy / amy は、マダガスカル語の「前置詞」で、英語であれば with ないし in あるいは at に相当するため、口語においても文章においてもたいへんに良く用いられます。ny は、既に繰り返しこの連載の中で説明させて頂いてきたように、マダガスカル語の定冠詞になります。

mpamosavy とは、mosavy「邪術」・「妖術」を表す名詞を語根とする動詞 mamosavy「～に邪術をかける」・「～に妖術をかける」に、上記の-p-が挿入された結果、そのような行為をする人と言う事で、「呪術師」もしくは「妖術師」を意味します。では、マダガスカルにおける「呪術師」ないし「妖術師」とはどのような存在なのでしょうか？この事象を説明するためには多くの紙幅を必要としますが、単純化すると、a. 夜中に墓に行き、そこで裸になって踊る人　と　b.＜呪物＞（ody）や＜毒＞（poizina）を用いて病気や死を含む災いを他者に与える人　に二分されます。

a は、「夜中に墓に行」ったり、「裸で出歩いたり」、「墓で踊ったり」と、普通の人なら

ば絶対にやらない行為をする人を指しています。また、「墓で踊る」と言う行為自体も、悼まれるべき人の死を喜んでいる事を表しています。「（人前で）裸になる」と言う行為は、マダガスカルにおいて「気がふれた」とされる人がとるパターン化された行動になります。a 系の人は、その事ですぐに具体的な誰かに災厄がもたらされるわけではありませんが、このような人間が様々な病気や災いを誰彼にもたらすものとされ、マダガスカルの人々の目からは、たいへんに邪悪な行為を行う人間として恐れられ、また嫌悪されています。

b 系は、＜呪物＞（ody）や＜毒＞（poizina）と言った具体的な物体を用いて特定の他者に意図的に死や病気や災いを与える人を指しています。しかしながら、＜毒＞と言っても、日本人にも「毒物」として容易に理解できる殺鼠剤や農薬から、ライターの石の粉末のようにその毒性について定かではない物、さらには＜呪物＞（ody）のようにマダガスカル人にとってもその物体の意味や効果が明瞭ではない物まで、広範囲な物体が含まれています。＜呪物＞と＜毒＞に共通している事は、何れも「目に見えて」、「触る事ができる」「物体」だと言う点です。これに対し、a 系の＜呪術師＞や＜邪術師＞は、「誰それが墓に行って踊っている」、或いは「誰それが深夜で墓に行って踊っているのを誰々が見た」と、伝聞推定の形で語られる事が一般的です。

a 系の＜邪術師＞や＜妖術師＞の存在について懐疑的なマダガスカルの人たちでさえ、b 系の＜邪術師＞や＜妖術師＞の存在を完全に否定できる人はごく少数であると言って良いでしょう。当然の事ながら、b 系の＜邪術師＞や＜妖術師＞も、人びとから恐れられると共に、たいへんに憎まれ嫌われています。

このことわざの社会的教訓そのものは、「嘘をついてはいけません」・「嘘をつく事は忌むべき事柄です」とたいへんに解りやすいものですが、その禁止事項の強度を、マダガスカルの人びとが強く恐れている＜妖術師＞や＜邪術師＞との出会いよりも、＜嘘つき＞との出会いを忌避され嫌悪されるべき事柄として表現している点に、特徴と面白さがあると言えましょう。

日本で作ろう！マダガスカル料理　第 43 回

Baranjena sy Hena
バランゼーナ・シ・ヘーナ

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所　深澤　秀夫

1）用意するもの（3～4 人分）

a. 茄子	6 本～8 本
b. 牛肉ブロック	500g
c. トマト	2～4 個
d. 玉ねぎ	1 個～2 個
e. ニンニク	半分
f. 生姜	小さいもの半分
g. 塩	少々
h. 食用油	少々
i. 固形スープの素	1 個
j. 包丁	1
k. シチュー鍋	1
l. ヘラ	1
m. 水	300cc~500cc

2）料理方法

a.　トマトを四つに切って、へたを取り、種子を指で掻き出し、さらに細かく切ります。皮を剥く必要はありません。玉ねぎの皮を剥いて、細かく切ります。

b.　生姜の皮を剥き、微塵切りにします。ニンニクも同じく皮を剥いて、微塵切りにします。

c.　茄子の蕚を切り落とし、四つに切り分けます。トマト同様、茄子も皮を剥く必要はありません。

d.　牛肉をマッチ箱くらいの大きさに切り分けます。

e.　鍋の底に薄く広がるくらいに食用油を入れ、加熱します。油が加熱されたところで、微塵切りにしたニンニクと生姜を加え、炒めます。ニンニクと生姜に火が通ったところで、玉ねぎとトマトを入れてさらに炒めます。玉ねぎとトマトがしんなりとしたところで、牛肉を投入し、よく混ぜ合わせます。

f.　牛肉に火が通り、色が変わったところで、鍋に水をいれます。次に、塩と固形スープの素、それに茄子を加え、強火で煮立てます。

g.　ひと煮立ちさせた後、1 時間ほど弱火で煮て、茄子がしんなりとしたら出来上がりです。

焦がさないよう、水分が減ってきた段階で、火加減に注意してください。

3）ここがポイント！

a.　茄子は油だけではなく肉の脂とも相性が良いため、牛肉は腿のブロックだけではなく、脂肪のついた筋肉や脛肉を混ぜて用いると良いでしょう。他の肉、豚肉や羊肉を使っても味の異なる、それでいて美味しい煮込みとなります。

b.　トマト味が好きでしたら、トマトの量を多めに入れても構いません。或いは、カレー粉を加え、少しカレー風味をつける事もお勧めです。マダガスカルにおいても調味料としてカレー粉が売られており、料理を「カレー風味」にする事は、都会の家庭では珍しい事ではありません。

c.　和牛よりも米国産やオーストラリア産の牛肉を用いた方が安価な上、マダガスカルで食べるこの料理の味の再現性が高まります。

baranjena sy hena とは、「茄子と肉」を意味します。「茄子」を表すマダガスカル語は、地域毎に異なるようです。フランス語で茄子を意味する aubergine に由来する bana もしくは voabana＜bana の実＞系の名称と、baranjele / baranjely / baranjena 系の名称の二つがあり、後者はレユニオンのクレオール語で茄子を指す bringelle に由来するとも言われています。そのため、マダガスカルにおいて茄子の栽培が広まったのはフランス植民地化以降であるものの、茄子そのものは 19 世紀のイメリナ（Imerina）王国時代に導入されていた可能性が高いようです。

マダガスカルにおける茄子栽培の歴史は必ずしも浅くはない上、各地の市場で茄子が見られるものの、マダガスカル料理において茄子を使う料理は少数です。特徴的な味の主張が無く、煮込みによく耐えると言う点では、前回ご紹介したハヤトウリ（sosety）と茄子は良く似ていますが、理由は詳らかではないものの、日本とは逆にマダガスカルではハヤトウリの方が食材として普及しています。マダガスカルの人々の側からすると、茄子は、インドーパキスタン系の人びとによって良く用いられる食材とのイメージが強いようです。とは言え、茄子が高価な食材ではない上、肉と一緒に煮込めば、おかずの「嵩まし効果」もあるため、都会の家庭では次第に馴染みのある料理となっています。

この日本で、マダガスカルの都会における日常の家庭の煮込み料理の味に挑戦してみてください！！！

マダガスカル研究懇談会会則

１９９９年　４月　３日制定
２００２年　３月３０日改訂
２００５年　４月　２日改訂
２００８年　３月２９日改訂
２００９年　３月２８日改訂
２０１６年　５月　１日改訂
２０１９年　３月３０日改訂

第一章　総則

（名称）

第１条　本会はマダガスカル研究懇談会（英名：Japan Society for Madagascar Studies、マダガスカル名：Fikambanana Japoney ho an'ny Fikarohana ny momba an'i Madagasikara）と称する。

（目的）

第２条　本会は、マダガスカル島及びその周辺島嶼の自然・社会・文化に関する会員相互の情報交換及び交流を促進し、もってこれらに関する研究の発展に資することを目的とする。

（事業）

第３条　本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

一　懇談会大会の開催
二　電子版による情報の発信
三　前二号に掲げる事業のほか、前条の目的を達成するために必要な事業

第二章　会員

（入会）

第４条　本会に入会しようとする者は、本会が別に定める方法により、入会を申し込むものとする。

（会員の権利）

第５条　会員は次の権利を有する。

一　第３条第一号の懇談会大会及び第１４条の総会への出席
二　第３条第二号の電子版情報への投稿及び寄稿
三　本会の事業活動への参画

（会費）
第６条　本会の会費は、無料とする。
（退会等）
第７条　本会を退会しようとする者は、事務局（第１３条に規定する事務局をいう）に対して退会を申し出るものとする。
２　世話役代表（第９条第一号の世話役代表をいう）は、世話役会の決議を経て、次の各号に掲げる会員を強制的に退会させることができる。
一　第２条に規定する本会の目的に著しく反する行為を行った会員
二　本会の活動を妨げる行為を行った会員
三　本会の品位を損なう等の言動又は行為を行った会員

第三章　役員及び事務局
（役員）
第８条　本会に次の役員を置く。
一　世話役代表　１名
二　世話役　１０名以下
三　会計監事　２名
（役員の任務）
第９条　世話役代表は本会を代表し、会務を総括する。
２　世話役は、本会の庶務、会計、渉外、及び第３条各号に掲げる事業の運営を担当する。
３　会計監事は、本会の財産の状況を監査し、その結果を総会に報告する。
（役員の選任）
第１０条　役員は、会員のうちから総会で選任する。
２　世話役代表及び会計監事は、役員の互選によってこれを選任する。
（役員の任期）
第１１条　役員の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、世話役代表の任期は連続２期を限度とする。
（世話役会）
第１２条　世話役会は、世話役をもって構成し、世話役代表がこれを招集する。
２　世話役会は、次に掲げる事項を決議する。
一　収支決算案及び事業報告案
二　収支予算案及び事業計画案
三　会則の制定、変更又は廃止に関する案
四　役員の任期満了等に伴う次期役員候補の選出

五　前各号に掲げるもののほか、本会の運営に関する重要な事項として世話役会が総会に上程することとした事項

六　本会の運営の実務に関する細則の制定、変更又は廃止

七　事務局（第１３条に規定する事務局をいう）の場所の選定及び事務局員第１３条第２項に規定する事務局員をいう）の選任

八　前二号に掲げるもののほか、本会の運営に関する事項であって、総会の決議を要さない事項

３　世話役会の議事は、出席した世話役の過半数で決する。

４　世話役代表は、第２項に掲げる事項の全部又は一部を決議する必要があり、第１項の世話役会を招集することが困難である場合には、世話役全員に宛てた電子メールその他の通信手段を利用して世話役全員による協議を行い、その過程において世話役全員の過半数が同意の意思表示をした案をもって、当該事項を決定することができる。

５　前項の決定があったときは、当該事項についての提案を可決する旨の世話役会の決議があったものとみなす。

（事務局）

第１３条　本会に、世話役代表及び世話役の会務を補佐する機関として事務局を置き、その場所は、世話役会の決議を経て、世話役代表がこれを定める。その場所を変更する場合も同様とする。

２　事務局に事務局員を置き、世話役会の決議を経て、世話役代表がこれを任命する。

３　世話役代表は、第１５条第２項の規定により第３条第一号の懇談会大会その他の催事の開催にあたり参加費を徴収することとし、かつ前項の事務局員が当該催事に参加する場合には、世話役会の決議を経て、その参加費を免除することができる。

第四章　総会

（総会）

第１４条　総会は、会員をもって構成し、毎年１回、新会計年度開始以後４か月以内に、世話役代表がこれを招集する。

２　総会は、次に掲げる事項を決議する。

一　収支決算及び事業報告

二　収支予算及び事業計画

三　会則の制定、変更又は廃止

四　役員の選任

五　その他本会の運営に関する重要な事項として世話役会が上程した事項

３　総会の議事は、出席会員の過半数で決する。

第五章　会計

（経費）

第１５条　本会の経費は、寄付金その他の収入をもってこれに充てる。

２　本会は、第３条第一号の懇談会大会又はその他の催事を開催するにあたっては、その都度、世話役会の決議を経て、参加者から参加費を徴収することができる。ただし、第１４条に規定する総会のみに出席する会員からは参加費を徴収しない。

３　前項の規定により参加費を徴収する場合には、世話役代表は、当該催事の開催及び参加費の額を予め会員に通知するものとする。

４　本会は、第３条各号に掲げる事業の実施にあたり、寄付金を募ることができる。

（会計年度）

第１６条　本会の会計年度は、毎年１月１日からその年の１２月３１日までとする。

附　則　（２０１９年3月３０日）

この会則は２０２０年1月１日から効力を発する。

第 26 回懇談会（大会）のご案内

マダガスカル研究懇談会第 26 回大会は、下記の要領で開催されます。開催にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じた上で実施いたします。事前の参加申込は必要ありません。会員、非会員を問わず、ふるってご参加いただけますようご案内申し上げます。なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、開催中止もしくはオンライン開催への変更になる場合がございます。

日時： 2023 年 3 月 25 日（土）13 時 30 分～（開場 13 時 00 分）

場所：京都大学稲盛財団記念館 3 階中会議室
〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町 46
URL: https://www.africa.kyoto-u.ac.jp/contact/access/

会場等の問い合わせ先：マダガスカル研究懇談会事務局
メールアドレス：info@madacom.org

大会参加にあたっての感染拡大防止対策とお願い

1.）当日、発熱・風邪症状等の体調不調のある方は参加をお控えください。
2.）会場内ではマスクの着用をお願いします。
3.）会場入口にある非接触体温計で検温をお願いします。37.5°C 以上の方は来場をお控えください。
4.）入り口に設置された消毒液で手指消毒をお願いします。
5.）換気のため窓開けを行いますので、暖かい服装でお越しください。
6.）後日、感染者が発生した際に連絡を希望される方は、会場の受付に用意する参加者名簿にメールアドレスをご記入ください。
7.）懇親会では、飲食する場所と懇談する場所を別室とします。飲食ではサンドイッチ・おにぎり等の軽食とノンアルコール飲料を用意いたします。飲食時は黙食をお願いします。また、会話の際はマスクの着用をお願いします。
8.）大会に参加された後、大会当日、翌日、翌々日までに発症し新型コロナウイルス感染が判明した場合、事務局（ info@madacom.org ）までお知らせください。

プログラム

13:30～ **ご挨拶**

13:40～ **発表 1: 糸井川 壮大**（明治大学農学部農芸化学科）

「味覚受容体の機能から見るキツネザルの食性適応」

14:50～ **発表 2: 江端 希之**（和布刈神社・京都大学アフリカ地域研究資料センター）

「マダガスカル・イメリナ地方におけるドゥアニ（王霊・精霊祭祀の社）信仰の生成と発展」

16:00～ **総会**

17:00～ **ポスター発表**

17:15～ **懇親会**（予定）（会場：京都大学稲盛財団記念館 3 階小会議室）

大会参加費： 大人 1,000 円、小人・学生等 無料。会員以外のかたもご参加いただけます。

懇親会参加費： 2,000 円（予定）

会場ではポスター発表会も開催します。A0 縦長の大きさ（縦 119cm、横幅 84cm）ていどのスペースを割り当てますので、発表者ご自身でレイアウトと掲示および発表終了後の撤収をしてくださるようお願いします。なお、ポスター発表は、会員の方に限らせて頂きます。

発表を希望されるかたは、2 月末日までに、ポスター発表をする旨のメールを下記の 2 つのメールアドレスまで送り、発表者名とタイトルをお知らせください：

info@madacom.org

edit@madacom.org

申込みが多数に達した場合には、先着順で発表をお受けしたいと思いますので、この点もあわせてご了承ください。会員のみなさまの積極的な応募をお待ち申しあげております。

会場までのアクセス

＊京阪電車

京阪「神宮丸太町駅」の出町柳方面（５番出口）から北へ徒歩４分（鴨川を左手に）

＊ＪＲ／近鉄「京都駅」から：駅北側のバスターミナルにて

（A2)乗り場から　市バス 205/17/4 系統で「荒神口」下車、東へ徒歩４分（荒神橋を渡る）

（C3)乗り場から　京都バス 17 系統（大原方面）で「荒神橋」下車すぐ

＊阪急「河原町駅」から

市バス 59/37/17 系統で「荒神口」下車、東へ徒歩４分（荒神橋を渡る）

＊地下鉄烏丸線「丸太町駅」から

市バス 202/204 系統で「丸太町京阪前」下車、北へ徒歩５分（鴨川を左手に）

京都バス「荒神橋」

原稿を募集しています

SERASERA は、会員間の交流と情報交換を目的としたニュースレターです。広く会員各位からの原稿（文章／表紙写真）を募集しています。

◆　SERASERA は、2020 年 1 月発の 42 号から、紙媒体の印刷物ではなく、マダガスカル研究懇談会のホームページ上で（ http://www.madacom.org/news/index.html ）電子的に公開されています。SERASERA への投稿・寄稿をめぐるご質問等については、電子メールで編集部宛て（ edit@madacom.org ）にお問い合わせください。

1. 原稿期限
   毎年、原則 5 月 1 日に夏号の編集を、11 月 1 日に冬号の編集を開始します。この日までに、電子メールで編集部まで原稿をお寄せください（edit@madacom.org）。ただし、文章を書きなれていない方の場合には、編集部とのあいだで通常より多くのやりとりをする場合がありますので、上記の期日よりも早めに原稿をお寄せください。
2. 原稿形式
   文章原稿はマイクロソフト社のワード形式で、写真原稿は JPG 形式でお寄せください。
3. 写真原稿
   表紙写真には、撮影者、撮影場所、撮影年（月日）および 100～300 文字の解説文章を添えてください。
4. 編集の手間を軽減するため、表紙写真原稿ではない一般原稿の場合には、できる限り、投稿者自身が文章原稿に写真を貼りこんで整形したワードファイルを作成し、お送りください。
5. 文章原稿
   分量にとくに制限はありませんが、ひとつの記事の長さは、短いもので 2000 文字ていどを目安とします。掲載希望コーナーの名まえと題名、執筆者名と所属をお忘れなく。文章は、予備知識のない人にも内容と意図が理解できるよう、できるかぎりやさしくわかりやすい表現で書いてください。マダガスカル語の語彙や地名、人名をカタカナ表記される場合には、アルファベット表記も添えてください。アルファベット表記がわからない場合は、編集部にご相談ください。生物についての学術的な原稿の場合は、生物名のラテン学名もできるだけ添えてください。
6. 関連写真・図表
   番号と短いタイトル、必要に応じて 2～3 行以下の解説を付してください。ひとつの記事につき、写真と図表あわせて 10 点ていどを上限とします。
7. 記事の出典（リソース）

自分が直接見聞していない話や、自分が集めたのではない資料については、出典（リソース）を明記してください。また、未確立の学説や根拠薄弱な仮説などが引き合いに出される場合、編集部が根拠や出典などの提示を求めることがあります。引用した文献については、著者名・文献名・出版年・出版社ないし書誌名・掲載ページ（雑誌論文の場合）などを文献リストとして末尾にまとめておいてください。

8. 文章コメント

わかりやすさと最低限の正確さを期するため、編集部が文章に目をとおして、著者にコメントを連絡いたします。ただし、最終的な文責は寄稿者にありますので、編集部からのコメントに従うか従わないかを適宜判断して、手直しをおこなってください。この作業は、原則一回とします。SERASERA の発行主旨や会の活動目的に合致しない記事と編集部が判断した場合には、掲載の延期や中止をお願いする場合があります。

9. レイアウトの著者校正

夏号の原稿については 6 月中、冬号の原稿については 12 月中に、レイアウトの著者校正をおこないます。この時点では、ページ数が変わるような大幅な変更ができませんので、7. に関わる手直し時までに、納得のいく文章にしあげてください。著者校正の段階で大幅な加筆訂正をされた場合には、編集部が掲載の延期や中止をお願いする場合があります。

10. 刊行とウェブ公開

夏号は 7 月下旬、冬号は 1 月下旬をめどに電子的に刊行いたします。ただし、編集作業は会員のボランティア作業にもとづいておこなわれていますので、執筆者のみなさまにはその旨よろしくご理解とご協力のほどをお願いいたします。投稿された記事や画像は、マダガスカル研究懇談会のホームページで公開します。

ニュースレター編集方針

- マダガスカル研究懇談会ニュースレターは愛称を「SERASERA」とします。Serasera はマダガスカル語で「交流」を意味し、＜セラセーラ＞と発音します。
- ニュースレターの編集は、世話役と事務局員から構成される編集部によりおこなわれます。
- 編集部員の名前はニュースレター上に開示します。
- ニュースレターは会員からの投稿および編集部が会員と非会員に対し執筆を依頼した原稿を記載し、発行されます。
- 原稿は、会の活動目的に沿う内容とします。
- その上で原稿は、その分野や領域を限定しません。
- 編集部は寄せられた全ての原稿を査読し、その内容が会の活動目的に合致しているかどうか、事実関係についての誤りあるいは文章表現や表記上の誤りや不適切な箇所がないかどうかについて判断いたします。

・　編集部は、執筆者に対し、原稿内容の修正を求めることができます。
・　原稿のニュースレター掲載への最終的判断は、編集部に一任されます。したがって、その内容が不適切であったり、事実関係の修正がなされたりしない場合には、編集部から依頼した原稿であっても、不採用とする場合があります。不採用の理由については、原稿の執筆者に対し編集部から通知いたします。
・　SERASERA に掲載された著作物の著作権はすべて著作者にあり、著作者は SERASERA に掲載された著作物を自由に利用できることとします。ただし著作者は、著作物の複製と公衆送信をマダガスカル研究懇談会に許諾したものとみなします。

2022 年度世話役・事務局・編集部・会計監事

【世話役】飯田卓・市野進一郎・蟹江康光・蟹江由紀・佐藤宏樹・高畑由紀夫・塚原高広（世話役代表）・水田拓・森哲・吉田彰
【事務局】市野進一郎・江端希之・蒲生康重・下家大典・関健次郎・前畑晃也・山田祐
【編集部】飯田卓・市野進一郎・深澤秀夫（編集主任）・前畑晃也・水田拓・山田祐
【会計監事】杉本星子・平野智巳

マダガスカル研究懇談会ニュースレター　SERASERA 第 48 号

発行者　マダガスカル研究懇談会
〒606‐8511
京都府京都市左京区吉田下阿達町 46
京都大学アフリカ地域研究資料センター内

2023 年 2 月 28 日　発行